

②⑦ 身近の自然を楽しむ 芦花公園の樹木の花：春～初夏
Enjoy the surrounding nature:
Flowers of trees in Roka Park, Spring to early summer

6/23/2023

吉野輝雄

芦花公園内で見られる樹木の花を、公園地図の位置を示しながら紹介します。

先ず、カタルパ（アメリカ キササゲ）。あまり馴染みがない植物かも知れない。しかし1981年に園内にその名を冠した保育園が開設された、なぜか？それは100年前にここに移住した明治の文豪・徳富蘆花の故郷熊本から若木が寄贈された事に由来する。蘆花と兄蘇峰は、新島 襄と同郷の友人で、新島はカタルパの苗木をアメリカから持ち帰り、熊本の公園に記念樹として植えられた。カタルパは大きな樹木に育ち、ササゲ（細長い豆）を付けた。その実から若木に育ち、蘆花の粕谷入村100周年の記念樹となった次第である。

6月初め、保育園の周辺だけでなく園内の歩道沿いには大きく真っ白なアナベル（別名、アメリカ紫陽花）が咲きそろい、来園者を魅了している。

4月、高遠小彼岸桜や八重桜の満開時期が過ぎると、園内には色とりどりの樹木の花が咲き、1年間で最も華やかな花の季節を迎える。特に今年は、ヤマボウシ（山法師）の真っ白な花が重なり合って咲く姿が印象的であった。濃い赤紫色のニオイロウバイ（匂い躑躅）の花は、形が整っていてブローチとして使える（と見る度に思う）。シャクナゲ（石楠花）が数種園内で見られたが、写真は最も優しく華やかであった。下から見上げた垂れフジは、花ビラ一つ一つが大きく、整っていて気品に溢れていた。

タイサンボク（泰山木）は園のシンボルの一つで、数本並んで立っている。今年はこの木にも多くの立派な白い花が付いた。コナツツバキ（小夏椿）／別名ヒメシャラ（姫沙羅）が先ず咲き、そしてと少し時をおいて夏椿が咲いた。夏椿は、冬の椿と同じ仲間と言わんばかり、満開直後に花びらが地面に落としていた。ところで、小夏椿／姫沙羅と沙羅双樹（サラソウジュ）は、名の一部が同じなので同種と誤解されることがあるが、後者はフタバガキ科サラノキ属で別種。

日本人の感性を揺さぶる薄ピンク色のネムノキ（合歓木）の花とオーストラリアを代表する真っ赤な花・ブラシの木が芦花公園内に同居している。見た時の印象は異なるが、手の平で触った時の柔らかな感触はまったく同じなところがおもしろい。

6月の代表アジサイ（紫陽花）の花4種と印象記。ノリウツギ（糊空木）はアジサイの原種。芦花公園内にあるのがうれしい。ガクアジサイ（額紫陽花）は、近年、交配により多種多様な花に出遭うことができる。その度に私はカメラに収めているが、昔からお馴染みの水色のアジサイを見るとなぜか気持ちが落ち着く。スミダノハナビ（隅田の花火）は、私の知る限りではガクアジサイの初期の種類で、芦花公園内では最古参。今年も元気で咲いたのを見てうれしかった。